

問い合わせ先

海洋情報部

海洋調査課長 淵田晃一

TEL099-250-9800(内線 2530)

平成 19 年 7 月 13 日

第十管区海上保安本部

測量船による海域火山調査を実施

海上保安庁では、本庁海洋情報部所属の測量船「明洋」により薩摩硫黄島周辺海域（鬼界カルデラ）において火山噴火予知のための基礎資料を整備するため、海域火山調査を実施します。

また、開聞岳南方海域では、平成 16 年度及び 17 年度に実施した調査から、はっきりとした地滑り地形が確認されました。

1 調査目的

本調査は平成 15 年 1 月に火山噴火予知連絡会が新たに活火山として範囲を変更した薩摩硫黄島周辺海域（鬼界カルデラ）において、海底地形、地磁気、重力などの情報を編集した海域火山基礎情報図を整備するため平成 17 年度に引き続き実施します。

2 調査期間

平成 19 年 8 月 15 日から 8 月 26 日までの間

3 調査海域

別紙付図 1 参照

4 調査項目

- (1) マルチビーム音響測深機を使用した精密海底地形調査
- (2) 曳航式プロトン磁力計を使用した地磁気全磁力調査
- (3) 海上重力計を使用した海上重力調査
- (4) 音波探査装置を使用した海底地質構造調査

5 開聞岳南方海域の調査結果

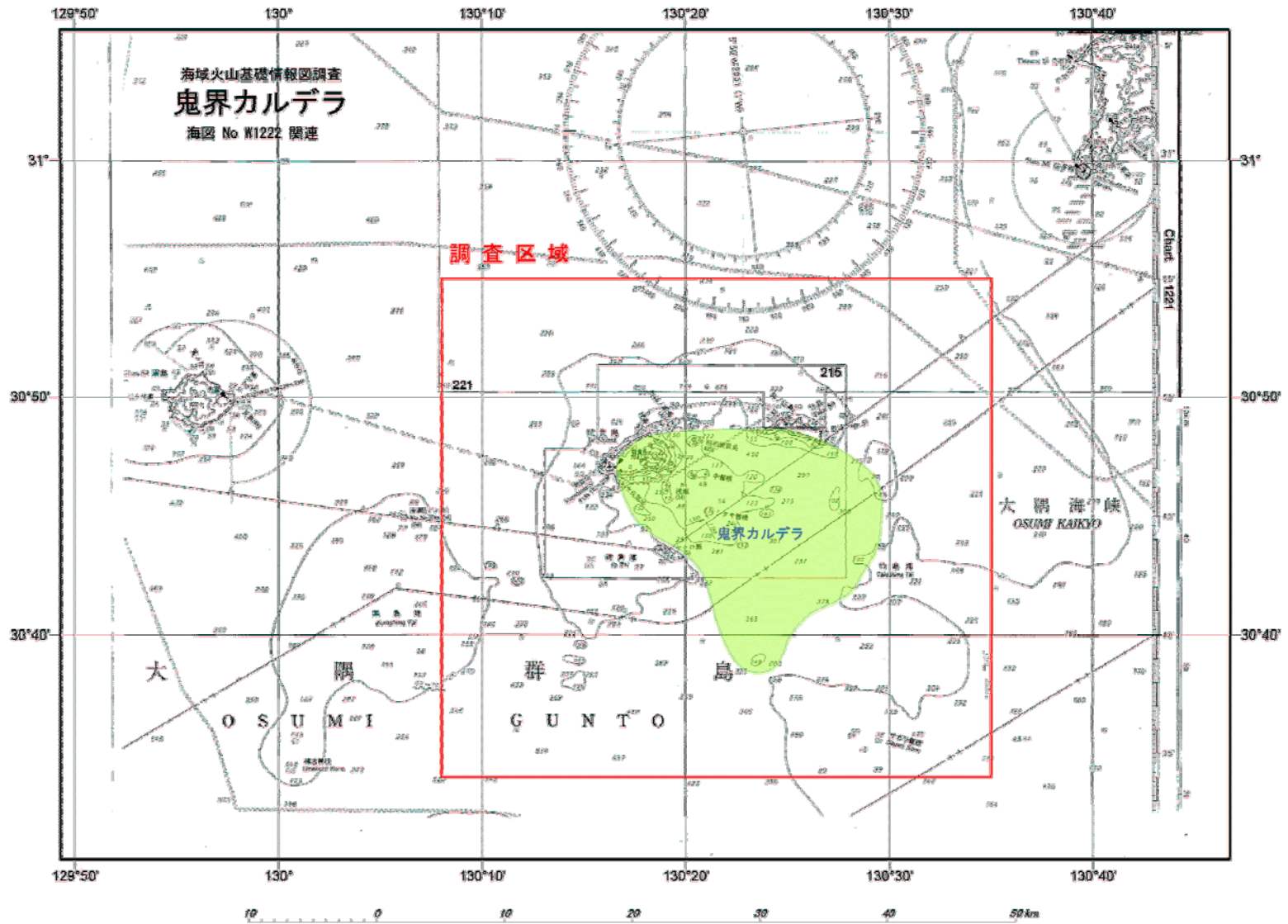
開聞岳南方の海底には開聞海底崖とよばれる急な崖と多数の小さな高まりが存在し、舌状の形をした台地が広がっていることが以前より知られていました。（沿岸の海の基本図「枕崎」）。

海上保安庁では、平成 16 年度及び平成 17 年度に、測量船「明洋」により、開聞岳南方の海底地形及び地質構造調査を実施しました。その結果から、この舌状

の台地は、海底で起きた地滑りにより運ばれたものが再堆積してできたことが明らかになりました。開聞海底崖の崖はその地滑りの際にできた崖と思われます。
(付図 2 参照)

地質構造調査から、この開聞海底崖は開聞岳山体の南部地下にも見られ、現在の開聞岳ができる前に地滑りが発生したものと考えられます。

平成19年度の調査海域（鬼界カルデラ）



開聞岳南方海域の地滑り地形

